

# 適性検査 I

## 注意事項

- 1 問題は 1 のみで、1～5ページに印刷してあります。
- 2 試験時間は四十五分間です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入し、解答用紙だけを提出してください。
- 5 答えを直すときは、消しゴムできれいに消してから、新しい答えを書いてください。
- 6 小学校名・受験番号・氏名（ふりがな）を解答用紙の決められた欄に記入してください。



1

次の**文章1**と**文章2**を読み、あとの問題に答えなさい。

(\*印のついている言葉には、本文のあとに「注」があります。)

**文章1**

「非難」や「批判」ということばは、世間的にはあまり評判が良くないようです。しかし、それは適切な非難と、<sup>\*①</sup>誹謗や難癖<sup>なんくせ</sup>といったことばによる攻撃<sup>こうげき</sup>とをはっきり区別することに失敗しているからだと思いません。ここでは、その区別をつけてみましょう。

私たちはすでに悪口<sup>いっばん</sup>一般<sup>とくちよう</sup>を特徴<sup>とくちよう</sup>づけることに成功しました。誹謗<sup>\*②</sup>や罵倒<sup>ばとう</sup>、あるいは陰口<sup>かげぐち</sup>や中傷<sup>ちゆうけう</sup>などは、細かい条件が異なる、悪口一般の変種として理解することができません。たとえば、「陰口」は基本的に悪口と同じで、誰か<sup>だれ</sup>について劣<sup>わと</sup>っている、ランクが下だと言うことですが、「言う側は、標的<sup>めあて</sup>自身が発言を聞いていないと思つていて」という条件を追加する必要があります。「陰」で言わなければ(あるいは少なくともそう思つていなければ)、「陰口」にはなりようがないからです。

非難をするとき、誰かに非がある、良くないところがあると指摘<sup>してき</sup>することになるため、悪口のように優劣<sup>ゆうれつ</sup>を示してしまう、と思われるかもしれません。しかし、適切な非難は単に人の劣<sup>わと</sup>ったところを指摘するものではないのです。

適切な非難は、「後ろ向き」(backward looking)であると同時に「前向き」(forward looking)である、と言われます。まず、後ろ向きであ

るのは、過去に行った悪いことを指摘するからです。あなたはこういう良くないことをしました、しています、とできれば理由も言いつつ示します。

非難が前向き、つまり未来志向であるのは、今後どうしたらよいのか、どうすべきなのかの指針も提示して、非難の対象に、これまでのふるまいを反省して、これから変わっていく機会をも与<sup>あた</sup>えるからです。一種の教育の可能性を持つているため、非難は前向きであると言えます。

<sup>\*③</sup>単なる罵倒や悪口なら、前向きな面を持つ必要がありません。標的をコミュニケーションの中で下位に置いて、自分の道具として利用したり、あるいはそもそも同じコミュニケーションから排除<sup>はいじょ</sup>することが目的だからです。その人が反省しようと反省しまいと、まったく問題ではありません。出て行つてもらうだけだからです。

適切な非難は異なります。非難の相手と同じ立場の存在だと考えているならば、これからもずっと同じ立場で、同じコミュニケーションの中で、仲良くなってもつき合つていかなければならない人物とみなしています。それならば、もし良くないふるまいをしてきたならば、それはやめてもらい、これまでの行いを反省して、今後はそうしないようにしてもらわなければなりません。ですので、こうした方がよいですよ、そうしたら歓迎<sup>かんげい</sup>しますよ、という態度を表明しなくてはなりません。

適切な非難や批判を自分への誹謗中傷だととらえてしまう人は、非難の前向きな側面が見えていないからだと思われれます。非難の後ろ向きな部分だけなら、確かに悪口や誹謗とそれほど違<sup>ちが</sup>いはないかもしれません。

いかに間違ったことをしたか、いかに正しくないのか、という指摘は、そうでない人との比較を含めると、自分が劣っているとされていることとなるからです。

見方を変えれば、不適切な非難や、意味のない叱責のようなものは、前向きの要素が少なすぎることになります。今後どうすればよいのかの行動指針がはつきりと示されていなくなったり、あなたは同じランクの仲間であり、批判を受け入れ、反省して変化していつてほしい、というメッセージがまったく伝わらないような場合は、単に叱りたいから叱っていると解釈されてしまうでしょう。人間の応報感情、「目には目を!」「やられたらやり返す!」という感情を満たすためにだけに、ぶん殴る代わりにどなっているのだろう、と思われてしまいます。

しっかりと悪いところを指摘するという後ろ向きの部分と、教育の機会を与える前向きの部分と、そのバランスをうまく取るのは非常に難しい作業で、私自身ももちろんうまくできるわけではありません。しかし、そのバランスを取ることをあきらめずには、私たちはお互いを高め合うということが一切できなくなります。

同じ社会に住んでいる人間同士は、まっとうな非難や批判をやりとりすることにより、お互い何を大事にしているかを理解し、成長することができます。もし意見が違って、落とし所が見つかるかもしれない。それぞれがそれぞれを気に入らなければ、追い出したり殺したりして、社会から排除するというのでしょうか。そんなわけにはいきません。どこにも追いつく先はありません。同じ時空に暮らしている人間同士、な

んとかやりくりして、一緒に暮らしていかなければならないのです。

(和泉悠『悪口ってなんだろう』による)

## 【注】

- ① 誹謗——悪く言うこと。  
 ② 罵倒——激しくののしること。  
 ③ コミュニティ——共通の目的や趣味などによって結びついた人々の集まりのこと。

## 文章2

アフリカは「暗黒大陸」といわれていました。ところが、アフリカのサバンナでは太陽は輝き、暗黒のイメージの反対です。それなのに「暗黒」ということは、完全にオリエンタリズム的な立場で見ているわけです。アフリカのことをいろいろと調べてみれば、すばらしい世界があるという人もたくさん出てくるし、自然もすばらしい、人間もなかなか立派な人がいて、独自の文化もある、ということがだんだんわかってくるのですが、やはり十把一絡げで「暗黒」となるのです。

ヨーロッパ人が「暗黒」と言ったのは、彼らから見ても、地図もできていないアフリカはヨーロッパ人にとって未知の世界だという意味なのであって、べつにアフリカが暗いといっているわけでもないのですが、「暗黒」と言われると、これは非常に劣った、人間の住めるところではない、

というイメージになってしまふわけです。

異文化に対する無知と無理解の上に立って初めから自文化優位で、異文化を見下すような態度は、今日でも世界を覆う非常に強い傾向ではないでしょうか。憧れと軽蔑、理想化と侮蔑が同居しているというのが、異文化へのアプローチの複雑なところ\*④です。

オリエンタリズムは、とくに近代世界の中で、いろいろな形で現れてきました。近代化の達成という点では、達成の度合が非常に高いところと低いところというような差がはつきりと見られます。そこに差別や軽蔑を生む原因があるのです。

日本人はそうした「基準」をすぐ当てはめて異文化を見てしまふ傾向をもっています。すぐさま「近代化」あるいは、経済活動の発展度といった度合でもって異文化を切ってしまう。インドにはすばらしい古代文明も現在の文化もあるのですが、それを理解しようとするよりは、インドは植民地になって、しかも非常に近代化が遅れているというのでまともな相手にしないとか、劣つたものとして見るという態度がずっと続いてきました。日本には仏教など世界的な文化がインドから伝わって来ましたが、また深遠なインド哲学も零を発見したインド論理学もあるわけですが、日本には、過去の大文明のインドと現在のインドというものに対する両極端なアプローチがあつて、オリエンタリズム的な態度もそこにははつきりと投影されていると言えると思います。それがここ数年バンガロールなどのコンピュータ・ハイテク技術者がアメリカで重用されていて、インド人ハイテク技術者の地位が高まるのとともにインド見直

しの気運が少し出てきました。これを機会に異文化としてのインドをもっと正面から理解しようとする動きが出てくればすばらしいことでしょう。

それとともに最近になってようやく日本にもアジアのいろいろな現代文化に対する関心が生まれてきました。インドは、製作本数でいえば世界最大の映画大国なのです。日本にはこれまでごく一部のインド映画しか入ってこなかったのですが、大衆的な娯楽映画が徐々に入ってくるようになって、少しずつインド映画に対する見方が変わってきていると思います。

その理由のひとつは、日本が豊かになって、欧・米の「先進」文化をモデルとして見るというだけでなく、余裕をもつていろいろな文化を見る、あるいは捉えようとするような関心が生まれてきたからではないか\*⑤、と思います。

そして文化の相対化も認識されてきました。絶対的に西欧文化優位ということはありませんし、絶対的なアメリカ文化優勢ということもありません。日本の文化も世界にいろいろな面で行き渡っていますし、そういう中で世界の多様な文化についての関心が出てきたと思います。

しかし、依然として異文化に対する偏見が根深くあることも認めなくてはなりません。たとえば、アメリカ文化に対しても深い理解があるとは言えないでしょう。アメリカの服装を例にとつてみると、アメリカ人はラフな格好で万事通すようなイメージを思い描く傾向があります\*⑥。ひところアメリカへ行くならば、服装に気づかうことはない、ジーンズ

とTシャツだけで十分じゃないかと言う人も多かったのですが、実はアメリカ社会は服装が非常に重要なところですよ。昼間はジーンズでも、夕方になったらフォーマルな格好をすることが多いし、服装の社会的な表示としての意識では、ヨーロッパよりも強いところもあるくらいです。だから、ビジネススーツとか、ビジネスで成功する服装とか、服装がパワーを持つとか、その種の本が多数出版されています。

私も初めてアメリカで生活したときに、服装に対してのかなり複雑な仕掛けがあるのに驚いたことがあります。大衆製品から高級製品まで全部ありますし、それを適当にうまく自分たちの生活様式に合わせながら使いこなすのが、アメリカにおけるファッションの位置づけです。

こういうことも日本で一般的になされるアメリカ文化を捉える一環な見方の中にはなかなかわからなかったわけです。アメリカで生活してみても初めてわかったことといえるでしょう。ですから、アメリカはラフで、ヨーロッパは高級という印象で、それをすべからず両者の文化全般にあてはめるような形で捉えられてきているのが、実際はそうでもないということが徐々にわかってくればいいと思うのですが、今日でもアメリカの文化と社会に対しては意外と理解が進んでいないというのが私の印象です。アメリカ人は多様な民族から形成されている国民ですから、文化も多様で一律に捉えるわけにはいかないのです。それと、そういう社会では逆に服装や態度といった外見的なことが大きな意味をもつことも理解しなければなりません。

(青木保『異文化理解』による)

【注】

- ① オリエンタリズム——筆者は、「オリエント地域、中東地域に対する蔑みや偏見を示す言葉」と述べている。なお、「オリエント」は西洋に対する、東洋のこと。
- ② 十把一絡げ——いろいろなものを、無価値なものとして一つにまとめること。
- ③ 侮蔑——見下したりさげすんだりすること。
- ④ アプローチ——せまること。
- ⑤ 近代世界——資本主義経済や市民社会を中心とする、近代化を達成している世界のこと。
- ⑥ バンガロール——インド南部の都市。技術研究、ハイテク産業の中心地の一つ。
- ⑦ 相対化——他との比較においてとらえること。
- ⑧ ラフな恰好——よそ行きでない、普段着の服装。

〔問題 1〕

文章 1

に「その区別をつけてみましょう」とありますが、何と何はどのように区別をつけられるでしょうか。本文中のことばを用いて説明しなさい。

〔問題 2〕

文章 2

に「アメリカ文化に対しても深い理解があるとは言えないでしょう」とありますが、この原因を次の一文のように考えました。 にあてはまることばを

文章 2

から五字でぬきだし、一文を完成させなさい。

ただし、句読点・カギカッコなどの記号を含む場合は一字と数えます。

多くの日本人は

にとらわれているから。

〔問題 3〕

私立中学に入学後は、文化や価値観の異なる生徒が集まり、学級をつくりまわります。そのような多様性が認められる教室の中で適切にわかりあうためには、どのようなことが必要だと考えられますか。あなたの体験をふまえ、あなたの意見を四百字以上四百四十文字以内で書きなさい。ただし、次の条件と「きまり」にしたがうこと。

条件

①

文章 1

文章 2

の筆者の考え方のいずれかにふれること。

②

適切に段落分けをして書くこと。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げで書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。
- や、や などそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じように書きます（まずめの下に書いてもかまいません）。
- と が続く場合には、同じように書いてもかまいません。この場合、。 で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのマスは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのマスは、字数として数えません。